

# じんけん

JINKEN  
第147号  
(通巻 274号)  
2022年10月5日発行

## INDEX

### 特集1

|                                                                                       |   |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 第44回大分県人権・部落差別解消教育研究大会ならびに第7回大分県人権・部落差別解消保育研究集会<br>ヒューライツフォーラム2022 開催のご案内(最終案内) ..... | 2 |
| HF2022分科会一覧表 .....                                                                    | 4 |

### 特集2

|                        |    |
|------------------------|----|
| ねがい .....              | 12 |
| 大分県人教事務局 高校教育担当 時枝武敏さん |    |

### オープン講座 .....

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 第2回オープン講座 オープンハート♡おおいたさん | 6 |
| 第3回オープン講座 土肥いつきさん        |   |

### 第1回出前オープン講座 .....

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 「自分を見つめ、綴り、語り、つながる子どもたち」<br>森山英治さん | 8 |
|------------------------------------|---|

### こどものまなざし .....

|                                                  |    |
|--------------------------------------------------|----|
| 「個性」は大切 玖珠町 川野真優さん                               | 9  |
| 問題行動の対応のみで終わらない子ども理解をめざして ...<br>わたしもクラスのなかまなの…? | 10 |



公益社団法人  
大分県人権・部落差別解消教育研究協議会

大分県大分市大字下郡496-38 大分県教育会館内  
TEL: 097-556-1012 FAX: 097-556-0864

URL <http://kjkkoita.jp>  
E-mail [hello@kjkkoita.jp](mailto:hello@kjkkoita.jp)



大分県人教の  
ホームページは  
こちら

印刷 小野高速印刷(株)

# 第44回大分県人権・部落差別解消教育研究大会ならびに 第7回大分県人権・部落差別解消保育研究集会 ヒューライツフォーラム2022 開催のご案内（最終案内）

公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会は、2004年以降県内に広く人権文化を根づかせていくため、各地からヒューライツフォーラムとして発信していくこととしました。杵築市からの発信は2度目となります。再び杵築の地で開催し、県内各地の学校や地域での人権確立をめざした実践を交流し、一人ひとりが自らの実践を振り返り、人権意識の向上や人権のまちづくりを進めます。

また、2016年に「フォーラム人権のまちづくり」が、2018年に「大分県人権・部落差別解消保育研究集会」がそれぞれ合併して、複数の大会・集会を統合して開催することになりました。このことは、乳幼児期から社会教育に至るまでの進路保障の取り組みを通して、部落差別をはじめとするあらゆる差別の解消に向けてより多くのなかまと共有していけるように、加盟研究団体すべての協力によって実践から学び合える場づくりを保障し続けています。

|       |                                        |  |  |
|-------|----------------------------------------|--|--|
| 大会テーマ | 差別の現実から深く学び、生活を高め、未来を保障する教育を確立しよう      |  |  |
| 地元テーマ | 次の世代につなぐ人権教育のあり方を創造しよう                 |  |  |
| 開催期日  | 全体会 2022年10月21日（金） 13:00~16:00         |  |  |
|       | 分科会 2022年10月22日（土） 10:00~15:00         |  |  |
| 会場    | 杵築市文化体育館 他14会場                         |  |  |
|       | 住所：〒873-0014 杵築市本庄2005 電話：0978-63-5558 |  |  |
| 資料代   | 3,500円（税込み）                            |  |  |

## ●大会日程

大会日程

|              |                                     |      |             |        |          |             |
|--------------|-------------------------------------|------|-------------|--------|----------|-------------|
|              |                                     |      | 12:00       | 13:00  | 14:00    | 16:00       |
| 10/21<br>(金) | 開会準備                                |      |             | 受付     | 開会行事     | 記念講演        |
|              |                                     |      |             | オープニング |          |             |
|              | 一般参加者の現地参加はありません。11月からの動画を視聴してください。 |      |             |        |          |             |
|              |                                     | 9:30 | 10:00       | 12:20  | 13:20    | 15:00       |
| 10/22<br>(土) | 開場準備                                | 受付   | 分科会<br>実践報告 |        | 昼食<br>休憩 | 分科会<br>総括討論 |
|              |                                     |      |             |        |          |             |

※分科会ごとに日程を変更して開催する場合があります

## ●特別提案・記念講演

|                  |                                            |
|------------------|--------------------------------------------|
| オープニング           | 浅黄半襟かけ拒否逃散一揆学習教材<br>「歩け希望の光に向かって」の朗読（2回上映） |
| ヒューライツ<br>ミュージアム | 人権啓発パネルの展示                                 |
| 記念講演             | LGBTとジェンダー・セクシュアリティを巡る人権課題<br>講師：仲岡しゅんさん   |

## ●動画配信

今大会では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の一環として、全体会の現地参加者を、各地区研究会等から事前に推薦していただいた数名の参加者のみとし、ほぼすべての一般参加者を動画配信での参加としました。

| 配信期間 |               | 2022年11月1日（火）から2023年1月31日（火）まで                     |
|------|---------------|----------------------------------------------------|
| 1    | 主催者<br>あいさつ   | 公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会<br>会 長 後藤 哲郎             |
| 2    | 主催者<br>あいさつ   | 大分県人権・部落差別解消保育連絡協議会<br>会 長 佐藤 成己                   |
| 3    | 共催者<br>あいさつ   | 杵築市 市 長 永松 悟                                       |
| 4    | 実行委員長<br>あいさつ | ヒューライツフォーラム2022実行委員会<br>実行委員長 清末 陽一                |
| 5    | 基調提案          | 公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会<br>事務局員 時枝 武敏            |
| 6    | 記念講演          | 「LGBTとジェンダー・セクシュアリティを巡る人権課題」<br>うるわ総合法律事務所 仲岡しゅんさん |



大分県人教 HP に動画配信ページを公開しています。

動画配信ページ URL 【[http://kjkaita.jp/?page\\_id=1691](http://kjkaita.jp/?page_id=1691)】

大会冊子に掲載されているパスワードを入力してご覧ください。

- 主催 公益社団法人大分県人権・部落差別解消教育研究協議会  
大分県人権・部落差別解消保育連絡協議会
- 共催 杵築市 杵築市教育委員会 ヒューライツフォーラム2022実行委員会
- 後援 朝日新聞大分総局 / 一般財団法人大分県教育会館 / 一般財団法人大分県私学協会 / 一般社団法人大分県身体障害者福祉協会 / NHK大分放送局 / エフエム大分 / 大分県 / 大分県教育委員会 / 大分県教職員組合 / 大分県高等学校教職員組合 / 大分県高等学校PTA連合会 / 大分県公立学校教頭会 / 大分県公立高等学校教職員組合 / 大分県国公立幼稚園・こども園会 / 大分県国公立幼稚園・こども園PTA連合会 / 大分県市長会 / 大分県市町村教育長協議会 / 大分県児童養護施設協議会 / 大分県小学校長会 / 大分県商工会議所連合会 / 大分県商工会連合会 / 大分県中学校長会 / 大分県町村会 / 大分県PTA連合会 / 大分県保育連合会 / 大分県立学校事務長会 / 大分県立学校長協会 / 大分県隣保館連絡協議会 / 大分工業高等専門学校 / 大分合同新聞社 / OAB大分朝日放送 / OBS大分放送 / 学校法人溝部学園別府溝部学園短期大学 / 株式会社テレビ大分 / 公立大学法人大分県立芸術文化短期大学 / 国立大学法人大分大学 / 社会福祉法人大分県社会福祉協議会 / 社会福祉法人大分県聴覚障害者協会 / 社会福祉法人大分県盲人協会 / 西日本新聞大分総局 / 日本文理大学 / 部落解放共闘大分県民会議 / 部落解放同盟大分県連合会 / 別府大学 / 毎日新聞社 / 読売新聞西部本社

※五十音順に紹介（全46団体）

【お問い合わせ先】 公益社団法人 大分県人権・部落差別解消教育研究協議会

《住所》〒870-0951 大分市下郡496-38 大分県教育会館2階

《電話》097-556-1012



# HF2022分科会一覧表

| 区分    | 分科会<br>番号 | 報 告 者                          | 報 告 内 容                                                                                                                                                  | 会場施設                             |
|-------|-----------|--------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 乳幼児期  | 1         | 由布（義務制）<br>小野 恭平<br>西庄内幼稚園     | 家庭と一緒に子どもの育ちをめざして～わくわくシートを通した保護者との繋がり～<br>自分の思いを伝えられず我慢しているA児が家庭、園の中で安心して伝えることができるようになってほしいという願いから、家庭との連携、友だちとの関係づくりにならぬ置いて取り組んだ1年間の実践。                  | 山香中学校<br>多目的室                    |
|       |           | 講師：田口康明<br>鹿児島県立短期大学           | 人権保育とは…<br>討議の柱にそってのグループ討議と、人権保育の研修を行います。                                                                                                                |                                  |
| 教育の創造 | 2         | くにさき（義務制）<br>木村 美咲子<br>志成学園    | 「行ってきます！ただいま！」<br>話しかけても何も答えず、目を合わせるもののなかったゆうを担任することになり、よくも悪くも干渉しない子どもたちと、「みんなで」を合言葉につなげていくことで、互いに認め合える集団へと変容するなかで、自分自身の決めつけにも気づけた実践。                    | 八坂小学校<br>体育館                     |
|       |           | 豊後高田（義務制）<br>深藏 沙織<br>高田中学校    | 「先生、何言いよん！そんなあたりまえやろ！」<br>教員生活初めての3年学級担任となった赴任3年目。何かと言動の影響力が強いAさんBさん2人の男子を3年間持ち上げることとなった。新しいメンバーで迎えた最後の中学校生活のありのままの日常の実践を報告する。                           |                                  |
|       | 3         | 豊後大野（義務制）<br>山下 真奈美<br>三重第一小学校 | 「サンクスの心」でつながるなかまづくり～「はしのうえのおおかみ」の授業実践を通して～<br>学校で実践した人間関係づくりプログラム、認めあうなかまづくりのための学級の取り組み、そして「はしのうえのおおかみ」の授業実践を通して、学級の子どもたちがどう変容したかを報告します。                 | 十王教育文化会館<br>2F研修室<br>※上履きはいりません  |
|       |           | 県南地区（高校）<br>佐藤 伸介<br>佐伯鶴城高校    | 「高校生による、高校生のための人権読書案内」<br>高校生の視点で自ら人権について学び、考えるための書籍を探し、生徒同志紹介する活動の途中経過について報告します。                                                                        |                                  |
|       | 4         | 玖珠（義務制）<br>平井 麻理<br>東飯田小学校     | 「手を離していく」という支援<br>Aさんが意思表示できるようになるまでの取り組みを通して、手を出しすぎるのではなく、徐々に「手を離していく」というサポートが子どもの自信に繋がり、自立に繋がっていくことを学んだ。                                               | 山香小学校<br>体育館                     |
|       |           | 国速杵地区（高校）<br>井ノ上 義弘<br>杵築高校    | 人間関係づくりプログラムに関する報告<br>2021年度から県下一斉に「人間関係づくりプログラム」が始まった。どの学校も試行錯誤しながら短時間の制約の中で取り組みを進めている。杵築高校の取り組みを紹介し、今後のための検討材料としていただきたい。                               |                                  |
| 自主活動  | 5         | 中津（義務制）<br>佐伯 電平<br>鶴居小学校      | 『来週から、Aさんが来ます。』～外国にルーツを持つ子どもの受け入れと体制づくり～<br>イエメンから転入することとなったAさん。日本語・英語も全く話せない状況で、隣接校や外部支援団体、日本語指導員の力を借りながら具体的な支援にこぎつけ、笑顔で「マルハバン！（ようこそ）」と彼を迎えた報告。         | 杵築中学校<br>体育館                     |
|       |           | 臼杵（義務制）<br>池見 竜治<br>下北小学校      | みんなが笑顔でいられる学級とは～Aさんとの関わりを中心に～<br>子どもたち全員が笑顔でいられるような学級をめざしてとりくみをすすめてきたつもりだった。しかし子どもたちはそうは感じてはいなかった。子どもたちにとって何が必要なのかを考え実践してきた日々の報告。                        |                                  |
|       | 6         | 宇佐（義務制）<br>堀之内 博史<br>宇佐中学校     | 一人ひとりが大切にされる学校づくりをめざして～人権集会の取組を通して～<br>宇佐中学校の人権集会に関わる実践報告。子どもたちの実態に即し、本当に子どもたちにとって実りある人権・部落差別解消教育とは何かを模索する中で、子どもたちのなかまづくり、教職員集団のなかまづくりを見つめ直したレポート。       | 文化体育館<br>アリーナ                    |
|       |           | 久大地区（高校）<br>長尾 秀之<br>中津東高校     | 「日田地区解放学習会」<br>一度途切れた解放学習会を再び立ち上げることができた。親の思いに打たれしかなかったら、出口を引き受ける高校としては、「解放学習会」での強い絆を基本にして「差別に負けない子ども」を育てていく必要があると思う。                                    |                                  |
|       | 7         | 速見（義務制）<br>米野 理恵子<br>藤原小学校     | みんな、わたしばかりせめる～さおりが安心して生活できるように<br>周りに誤解されやすいさおり。読み聞かせや保健の授業を通して多様性を認め、自己肯定感を高めることによって、さおりの思いに気づき、寄り添えるなかまをつくっていった実践の報告。                                  | 大田小学校<br>体育館                     |
|       |           | 竹田（義務制）<br>安部 圭助<br>竹田南部中学校    | 豊かな人間性と資質・能力を備え、夢に挑戦し続ける生徒の育成をめざして<br>2019年度より「人間関係づくりプログラム」を学校全体で継続して取り組んでいる。活動内容を増やしたり生徒主体のとり組みにしたりするなど活動の進化をはかり、全校誰とでも考えを伝え合い、その考えを認め合える集団づくりを進めている。  |                                  |
|       | 8         | 別府（義務制）<br>岩尾 華奈<br>南小学校       | お互いを認め合い、安心できるクラスづくりをめざして<br>学校生活でのいろいろな困りや不安を言葉にすることができず、その気持ちが態度や行動に表れるAさん。そんなAさんの思いに寄り添った支援と変容、クラスの友だちとの関わりについて報告する。                                  | 健康福祉センター<br>多目的ホール<br>※上履きはいりません |
|       |           | 日田（義務制）<br>木下 絵梨<br>若宮小学校      | 言葉でつながりたい～「表現をためらわない」「自分らしく」～<br>「言葉」を磨こう、「言葉」でつなごう・つながろうと、言葉にこだわってきた。委員会活動や1年生での学級で、言葉を大切に、考える力・表現する力・認める力を育てようと取り組んだ実践。                                |                                  |
|       | 9         | 佐伯（義務制）<br>田中 勇介<br>挾間小学校      | きらきら みんなの ちからを あわせよう～こころがきゅーってなる取り組みを通して～<br>同じこども園から入学してきた7名の1年生。一緒に過ごす中で感じた子どもたちの成長と、そこから見えてきた課題について、「落ち着きがなく、気分が乗らないと活動できなかったAさん」と周りの子どもたちの変容をまとめました。 | 杵築高等学校<br>体育館                    |
|       |           | 大分（義務制）<br>小野 大介<br>東大分小学校     | 子どもたちがつながる学級をめざして<br>過去に、言葉による差別を受け、一人でいることの多かったAさん。そんなAさんに寄りそいながら、彼女を含め、だれもが過ごしやすい学級をめざし、人間関係づくりプログラムをとり入れた実践の報告。                                       |                                  |

| 区分      | 分科会<br>番号 | 報 告 者                                | 報 告 内 容                                                                                                                                                | 会場施設                                         |
|---------|-----------|--------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| 進路・学力保障 | 10        | 杵築（義務制）<br>阿部 起也<br>東小学校             | 「どうせ俺はでんしん」～Aさんの困りに、個と集団から寄り添う～<br>「分かん」 「でんしん」と学習を放棄し、よくない行動で注目を浴びて存在感を得るAさん。Aさんの困りに寄り添いながら、Aさんの良さを見出し、肯定的感情を個人、そして、集団に広げていくよう試みた実践。                  | 東小学校<br>体育館                                  |
|         |           | 宇高地区（高校）<br>築島 香織<br>高田高校            | 居場所となるホームルームをめざして ～「思いやりの心」を持ったクラスへ～<br>中学時代から別室登校が続いていたAさん。高校入学を期に、教室に入ることにチャレンジした。つらさや苦しさを感じながらも、他者とコミュニケーションを取り、学習活動や特別活動に取り組んだ実践例の報告。              |                                              |
|         | 11        | 津久見（義務制）<br>平野 みちる<br>県立聾学校          | いつも子どもを真ん中に ～みど・みのの変容を通して変わったこと～<br>「みんなと同じように」に傾倒しかけてしまう私に、「一人ひとりの子どもを大事にする」「個別に支援する」ということはどういうことかを気づかせてくれた母親。そして、みどりとみのりを真ん中にして、同僚といっしょに取り組んだ2年間の実践。 | 宗近中学校<br>体育館                                 |
|         |           | 豊肥地区（高校）<br>竹永 勝<br>稲葉学園高校           | 「不登校」・「発達特性」の生徒との関わり<br>県内はもとより県外からの入学生が多く、入学する前に友人関係のトラブル、保健室・適応指導教室登校、不登校などで悩み・苦しみ、学力面・生活面で自信を無くしている。本校でどのように変わるのか具体例を挙げる。                           |                                              |
|         | 12        | 大分地区（高校）<br>成松 好一郎<br>鶴崎工業高校         | 本校の進路保障について 100%進路実現を目指して<br>「社会とつながる鶴崎工業」のキャッチフレーズのもと、5つの学科で専門分野の知識・技術の習得を目指し、学校全体で学力向上や資格取得に励んでいます。その中で色覚特性等の生徒の就職支援の取り組みを報告します。                     | 山香庁舎 3F<br>多目的ホール<br>(山香中央公民館)<br>※上履きはいりません |
|         |           | 中津地区（高校）<br>久本 見二<br>中津南高校           | 困りや課題を抱えた生徒と関わって感じた事<br>これまで関わった困りや課題を抱えた生徒の中には、進路変更する者や悩みながらも卒業していった者がいた。自分は彼らと真に向き合ってきたのか。自分自身の関わり、校内の取り組みや連携、担任の向き合い方を考えてみた。                        |                                              |
|         | 13        | 別府地区（高校）<br>友永 愛津子<br>別府支援学校鶴見校      | 「お兄ちゃんみたいに働きたい」～別府支援学校鶴見校の進路支援<br>「学校を卒業したら…？」の不安を抱えながら、ようやく自分のしたいことに向き合うことができたTさん。卒業までに目標を達成するには障壁が存在したが、時間をかけてでも夢にむかう力を育む進路支援に取り組んだ。                 | 杵築小学校<br>体育館                                 |
|         |           | 県人教推薦<br>上尾 茂<br>鶴崎中学校               | ゆうきくんと3年間 ～不登校生の進路保障のあり方を探って～<br>学校内外の繋がりによって子どもの困りと向き合い、登校・不登校に関係なく子どもたちを繋げる学級づくりの実践。そして、子どもと保護者とともに確かめていった進路実現の取り組みの報告と課題提起。                         |                                              |
| 学習・啓発   | 14        | 臼杵市（社会教育）<br>和田 敬生、柳井 信一<br>臼杵市社会教育課 | 臼杵市教育委員会 社会教育課の部落差別解消推進・人権教育の取り組みについて<br>各関係団体と連携を図りながら、「人権研修会の開催」「人権講師の派遣」「関係団体職員の研修」の3本柱で、人権意識の向上や人権啓発に取り組んでいます。                                     | 山香庁舎 2F<br>大会議室<br>※上履きはいりません                |
|         |           | 九重町（社会教育）<br>井上 直樹<br>九重町社会教育課       | 「九重町における人権教育・啓発の現状と課題」<br>九重町社会教育課では主にPTAを対象とし、部落差別解消・人権啓発を進めるための連続講座「なるほど“ザ”人権講座」を実施している。その取り組みから新たな人権啓発と教育の担い手を育てる取り組みの報告。                           |                                              |
| まちづくり   | 15        | 講師：帯刀浩至<br>杵築市社会教育課                  | 「浅黄半襟懸け拒否逃散一揆」に学ぶ<br>マイクロバスを使ったフィールドワークと、教材化に向けた人権講座を併催します。フィールドワークについては、杵築市人権啓発・部落差別解消推進課が支援します。                                                      | 杵築市隣保館<br>集会室                                |

## ★感染対策について

- ・入場時に非接触型体温計で検温し、37.5℃以上の場合には接触型体温計で再検温します。  
その時も37.5℃以上だった場合には現地研修を取りやめさせていただきます。
- ・乗り合わせでご来場いただいている場合には、同乗者も現地研修を取りやめさせていただきます。
- ・手指消毒や常時換気等を心がけていますので、温度の変化に対応できる服装でご来場ください。
- ・各施設では、スリッパ等の貸出や喫煙所の設置を行いません。
- ・各施設には、施設内で昼食をとることができるように依頼していますが、各自でマスク会食等の感染対策にご協力ください。
- ・分科会会場の近くにお店が少ない場合もありますので、事前に昼食の準備をお願いします。会場での弁当の販売も行いません。

## ★分科会会場について

- ・分科会会場間の移動は認めていません。事前に申し込まれた分科会での学びの場づくりにご協力ください。
- ・靴や傘等は、ビニール袋を準備しますので、各自で保持してご参加してください。
- ・子どもたちの学びの場や市民の集いの場を会場としてお借りしていますので、ゴミは各自でお持ち帰りください。
- ・片付けにもご協力いただけますと幸いです。

オープン講座

8月4日に第2回、第3回オープン講座を開催しました。

今回は、対面での講演とZOOMでの参加も可能でした。気持ちのワークショップでは、グループワークで行いました。ZOOM参加者もブレイクルームで、それぞれの気持ちを話し合うこともしました。

第2回オープン講座 「気持ちのワークショップ」  
～ キーワードは、全部あなたの大切な気持ち ～  
オープンハート♡おおいたさん

第2回オープン講座 「気持ちのワークショップ」  
～ キーワードは、全部あなたの大切な気持ち ～  
オープンハート♡おおいたさん

「今の気持ちは、何色でしょう？」と、たくさん色紙から、選んだ色をグループごとに、紹介するアイスブレイキングで、始まりました。

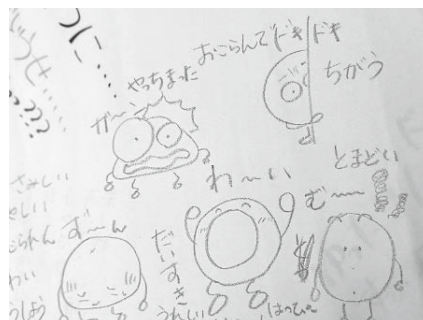
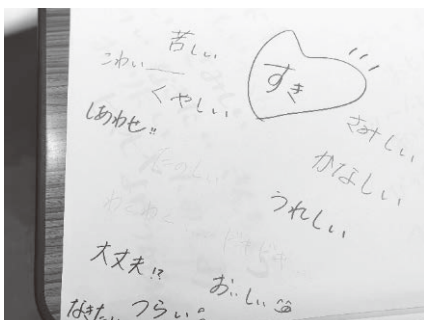
このワークショップは、「気持ちの本」(作森田ゆり・絵たくさんの子どもたち)に描かれた子どもたちの絵を通して、その気持ちや思いに触れ、おとなの私たちも、自分のたくさんの気持ちを、どのように表現しているか、感じているのに蓋をして苦しい気持ちはないか、などに気づくワークショップです。おとなの私たちが、自分の気持ちを大切にしていくことで、子どもの気持ちにも寄り添えるのです。



グループで話し合ったり、読み聞かせを聴いたりして、どの気持ちも大切なことや安心して自分の気持ちを話せる環境とは、どんなものなのか、参加者のみなさんは体験したようでした。

＜参加者より＞

- 「人権の学習」という意識があり、身構えていましたが、大切な話を聴いたり、グループで会話していく中で、心が温かくなって終わりました。自分が大切にされた＝人権が守られたということでしょうか。身構えず、自分ができることを通じて子どもたちの人権を育てたいと思いました。
- 気持ちを書き出した時に、自分の中にある様々な感情があるのに、それを表現できていない自分に気づかされた。気持ちを解放すると、気分がいい。この経験を契機に、もっと自分の感情を表現できるようにしたいと思った。
- 人に話を聴いてもらうことや、人の話を聴く機会が少なかったので、いろいろな人と話せて楽しかった。「比較」は最大の暴力という言葉が気になった。クラスで日頃、比較していることが多い気がした。





## 第3回オープン講座 「問題の所在はどこか」

土肥いつきさん

多様性とは何なのか、気づきをもらえたいつきさんの講演でした。

水平社宣言のことにもふれ、この精神が、多様な社会を作ることの土壌となるので、みんなで耕していこうと思えました。

<参加者より>

○多様な性…ほんとに多様なのだということがわかりました。

○性に関しての人権、初めて聞く言葉もありました。今まで、自分のまわりにトランスジェンダーの方がいないと思っていて、あまり関係ないと思ってました。話を聞いて、身体的だけでなく、気持ちだったり…。自分は、女性と思っていましたが、いろんなことで考えさせられました。

○基盤づくりが大事。居心地のよい場所作りが必要。幅を持った性の捉え方ができるといいなと思った。

○自然が好む多様性をどう社会が、うけとめて、そこに近づけていけるかということなのかなと思った。

○多様性があるのが当たり前ということにすごく納得しました。中学校では、確かに男女で分けることが多くあります。そうやって二つに分けることを意識付けてしまっているのかと改めて思いました。

○ちょうど水平社について学習したばかりでした。あらゆる差別をなくすために「人間は、尊敬すべきものだ。」の精神を大切に、子どもたちの前に立ちたいです。



ずっと昔、「風邪の特効薬をつくれたらノーベル賞がもらえるよ」という人がいた。子ども時代の私には、テレビで風邪薬のCMをたくさん見たことがあるので不思議でならなかった。問い返してみると、「風邪っていうのは、いろんな病気のひき始めのような状態だから、どの状態でも治してしまう薬があったらほしくない？」と言うことだった。

おとなになった自分は、確かにちょっと具合が悪いときに風邪気味っていう言葉をよくつかうようになった。それでもやっぱり、一言で「風邪」と言っても、個人によって状況や捉え方は違うように感じている。同じように、私たちが守ろうとしている子どもたちの「進路」とは、本当に自分の捉えで良いのだろうか？

## 『進路保障』って何だろう？～部落差別の現実に学びながら、反差別のなかまづくり～

### 第1回出前オープン講座 「自分を見つめ、綴り、語り、つながる子どもたち」 森山英治さん

みなさんは「『進路保障』って何ですか？」と問われたときに、どのように答えますか。義務制教職員の私は、「中学を卒業する子どもたちが、自分の望む進学や就職等を選択できることです。」と答えていました。中学校の先生方に様子を聞きながら、小学校でもできることをしたいとも思っていました。

でも、そもそも『進路』とは何なのでしょう？多くの辞書では、「進んでいく道」とともに「将来進む方向」と示されています。あらゆる差別の解消に向かおうとする教育では、人生の中の刹那とも言える中3や高3の子どもたちを進路先につなぐことだけを『進路保障』として捉えるのではないことを、森山さんから学ぶことができました。「どんなことを大切にしたいのか、どのように成長していきたいのか。」自分のことを、語っていきえるようななかまが、子どもたちのそばにいますか。互いの進路を語り合い、尊重し、ともに進むことができるなかまづくり。『進路保障』は、乳幼児期の教育から始まっていたのです。



開催予定地だった津久見市保戸島と講師の森山英治さん

感染拡大により保戸島小学校での開催は取り止めましたが、会場の津久見市役所には、幼稚園の先生や行政関係者も自主的に参加されました。講座後のグループトークの中では、「違反質問を許さないことやどこかの高校に入学させることは、それこそが進路保障なのではなく、『進路保障』という大きな営みの中の一つの実践なのではないかと思えるようになった。」という意見も出されました。

#### 参加者の感想

- ◆「進路保障」という言葉を聞いて、はじめは経済面などが原因で進路を諦めることがないよう支援することだと思っていました。だけど、それだけじゃない大切なことを学びました。
- ◆私は「進路保障」という言葉を初めて聞きました。グループでの話し合いや、森山さんの話を聞く中で、人格形成を築きあげていく幼少期からの環境が、小・中学校にもつながっていることもあるのだと気がつきました。
- ◆くらしの中に差別はある...気づける自分になりたい。自分の薄っぺらさを感じました。職員のなかまづくりが、子どものなかまづくりにつながる。しっかりふり返りたい。
- ◆進路保障とは、『その子の生き方をみんなで保障していくこと』という言葉がすんなり心に響きました。私のクラスにも、「先生、気づいて」と声にならない声を伝える子どもがいます。その子ども一人ひとりにこだわって、一人ひとりの子どもと関わりきりたいと思いました。

「言わない・書かない」取り組みが進路保障の真髄なのではありません  
もちろん「言わせない・書かせない」と願うおとなの取り組みも必要です

しかしそれ以上に大切なことは  
「何でも言える、そして何でも書けるなかまづくり」なのではないでしょうか





# こどものまなざし

このコーナーでは、今年度の人権作文集「ひかり」に掲載された作品を紹介していきます。子どもたちが日常の生活の中で考えたこと、感じたことなどにふれ、子どもたちの姿から学んでいきたいと思います。

## 「個性」は大切

私は、道徳で「権利の熱気球」という学習をしました。いくつかの権利の中から自分が大切だと思うものを選んでいくという学習でした。たくさんの権利が出てきましたが、その中でも私は「みんなと異なっているところを認めてもらえる権利」や「いじめられたり、命令・服従されない権利」の2つが特に大切なのではないかと考えました。

今回の学習を通して、「人権を大切にする」というのは、きっと「違いを認め合う」ということなんだと思いました。学習の中で、自分が大切に思う権利について友だちと話し合う場面がたくさんありました。友だちと考えを比べてみると、それぞれが大切にしたい権利が違い、その理由も様々でした。自分と違う友だちの考えを聞くことは、とても勉強になったし、楽しいと感じました。何より私の考えを友だちに聞いてもらえたとき、「なるほど」とうなずいてもらえたとき、とても嬉しくて心が温かくなりました。こんな気持ちをこれからも感じたいし、私の身の周りの人にも感じてほしいと強く思います。だからこそ「違いが認め合える」関係であるために、「みんなと異なっているところを認めてもらえる権利」や「いじめられたり、命令・服従されない権利」は大切にしていきたいと思いました。

人権作文集ひかり2022【第34集】

玖珠町 小学校五年 川野真優さんの作品より

作者の川野さんは、「権利の熱気球」の学習の中で特に大切だと考えた2つの権利として、「みんなと異なっているところを認めてもらえる権利」と「いじめられたり、命令・服従されない権利」を挙げました。そして川野さんは、この学習を通して、「人権を大切にする」ことは「違いを認め合う」ことだと気がつきました。これは「人権を大切にする」ことの本質に迫る気づきではないでしょうか。

この学習で「心が温かく」なった川野さんは、「身の周りの人にも」同じような温かさを感じてほしいと強く願っています。心の温かさを感じたことがある人は、きっと、そのぬくもりを他者に伝えることができることでしょう。

「人権を大切にする」とはどんなことなのか、改めて考えさせられる作品です。

# わたしもクラスのなかまなの…？

少年Aがトイレに行くと、きまってトイレの紙がなくなった  
何度も響く「ばあちゃん、紙ねえよお！！」の声  
祖母は問いただすこともなく  
「はいはい、ちょっと待ってな」と言い  
トイレに入った孫に、紙を何度も何度も届け続けた

一体何が起きているのでしょうか。頻繁に「誰か持ってきて」というのであれば、私でしたら「どうしてトイレに入る前に紙があるかどうかを確認しないんだ！」と言います。実際、少年Aの両親はそうのようにアドバイスをし続けていたようです。それでも確認を怠って、誰かに紙を届けさせることは、問題のある行動のようにも思えます。



少年Aの家のトイレは、居間から離れた仏間のそばの長い廊下の先にありました。トイレは水洗ではなく汲み取り式の穴の中に排泄するタイプです。換気扇はついていますが、風が強い日には空気が逆流して、生暖かい臭気が穴から立ちのぼります。そして、廊下もトイレも薄暗いオレンジ色の白熱電球が辺りを薄暗く照らしました。

少年Aは、決して運悪く紙がなくなる瞬間にトイレに来ていたわけではありません。夜、トイレに来る度、そこに残っている紙を掴んで、真っ暗な穴の中に投げ込んでいたのです。無事に紙をなくした後は、家族に「紙がないから誰か持ってきて」のコールをするのです。



少年Aの願いは、祖母によりいつも達成されました。祖母が紙を持ってドアの外に来るまでに用を足し、祖母に「ありがとう」と言いながら急いでズボンをはき、少し前を歩く祖母に追いつくように手を洗って、一緒に居間に戻るのです。

少年Aの願いは「トイレが怖い」「誰かについてきてほしい」というものですから、紙があるかどうかを確認することに意味はなく、それどころか家族を呼べなくなるトイレの紙の存在は邪魔で邪魔で仕方ないものでした。『誰かに紙を届けさせる』という問題行動は、両親のアドバイスでは解決することはありませんでした。

**問題行動から対処法をさぐることには限界があるのかもしれない**

**どんな時に問題行動が起こるかを探ることが、解決への近道になることもあります**

それでは、「トイレが怖い」「誰かについてきてほしい」と願う少年Aが、いわゆる問題行動をとらないようにするには、あなたならどうしてみますか？例えば…

① 水洗トイレに変える



トイレの穴の中を見ないで  
すむようにしてみる

② 照明を明るくする



トイレの隅まで明かりを届  
けて闇を減らしてみる

③ 居間を移す



トイレのそばを居間として、  
誰かがいるようにしてみる

今回の問題行動の解決はなかなか手強そうですね。家族に自分の願い通りの行動をとらせようと必死だった少年Aですが、もしかするとおばあちゃんの手のひらの上で必死に暗闇と闘っていたのかもしれないね。もちろん、少年Aは今では夜のトイレでも家族を呼ぶようなことはなくなり、代わりに「誰かついてきて〜」という我が子に「はいはい。今日だけだぞ。」と言ってトイレのそばに立っているのです。



クラス全体はすごく良くなっているんで  
あとはCちゃんがもう少しがんばってくれば良いのですが…

まず、クラス全体の中にCちゃんはいっていないのでしょうか。Cちゃんだけが問題行動を続けているのであれば、それまでの支援は効果がないものなのではないのでしょうか。そもそも、どうしてCちゃんだけに問題行動がみられ続けるのでしょうか。

まだまだ不登校のことを「登校拒否」と呼んでいた時代、『あの子が登校拒否なのは、家庭のしつけが悪いんだ』という考え方も少なくありませんでした。問題行動は、その子や家庭の責任であると決めつけた人たちの中には、当時の教職員が入ることもありました。



その雰囲気家庭に伝わることで、保護者は学校のコミュニティーだけでなく社会からも孤立し、自分や子どもが「社会悪」であるように思い込み、ほとんど外出しなくなる事例もありました。

問題行動への対応からスタートすれば、問題行動をする子どもの改善だけが支援の手立てのように感じます。しかし、そもそも学校教育は人と人との関わりの中で子どもたちが成長していくものです。人と人との関わりの先に問題行動があると考えれば、「まわりのおとなやかなまの言動が、Cちゃんにどのような行動をとらせるのか。」ということを見つめ直す必要はあるのではないのでしょうか。

「行動分析」という手法を用いて子どもを理解し、なかまづくりへとつなぐ特集としました。すでに「行動分析」をもとに学級づくりをしている方もいらっしゃるようですので、そのような方の実践も交えながらの情報を発信していきたいと思います。



# ねがい

## 「立っている位置」を問われて

「先生がいくら頑張っているけど、立つ位置がずれていたら何もならんやろう」「外から見えて差別の何が分かるんかえ」

この言葉は、私が1999年から3年間、同和教育推進教員をした前々年、はじめて地区の解放高校生学習会保護者会に参加した時、私が話したことに保護者が返してくれた言葉です。「これは命の教育なんだから、先生たちは綺麗な言葉だけでなく、子どもたちと一緒に本気で頑張ってよ」という熱い願いとともに、私は自分がこれからするべきことを教えられた思いがしました。私にとって、本当の「差別の現実」との出会いは、この解放学習会、そしてそこを何よりも大切に思っている子どもたちとの出会いでした。

毎週一回、18時半から21時までの解放学習会、そして毎月一回の解放保護者会、学習会には地区の子どもたちだけでなく、地区の子どもたちから「立場宣言」を受けて参加し始めた子どもたちや外国にルーツを持つ子どもたち、学校に行くことに困難を感じている子どもたち



大分県人教事務局員  
高校教育担当  
時枝武敏さん

など、様々な立場の子どもたちが参加していました。当初子どもたちの思いを繋げられない私たちは、保護者からは「元気が出ない学習会になっているんじゃないか」…、子どもたちからは「なかが苦しいでいることを知っているのに、そんなことを出し合えないのが悔しい」「先生たちは差別を憎む一人の人間としてここに参加しているのか」…と、厳しい思いを突き付けられました。しかし、この厳しさが子どもたちが向き合っている現実の厳しさであり、思いの深さであることを私たちはしっかりと受け止めるなければならぬと思えました。「私たちと同じところに立つことはできないけど、近づくことはできるやろ」そんな保護者の言葉に背中を押してもらいながらのスタートでした。

子どもたちにとってこの学習会は、みんなで学び合い、差別を跳ね返していく力を身につけていく場であるけれど、それとともに、きつい思いをしていたらなかまのところで聞いてもらい、そこに行けば何か言える自分の居場所があって気が楽になる、そんな場でもあります。小学校の時からずっと欠かすことなく学習会に参加してきたAは、高校3年生にな

り就職先が決まり、母親の願いでアルバイトを始め、学習会に来られない日が続きました。そんなある日の学習会がもう終わろうとする頃、「今、アルバイトが終わったからすぐに迎えにきてほしい」とAから電話があり、「今から来ても…」と言ったかまに「ちよつとでもいい、参加したいんだ」とAは声を荒げました。この時電話の向こうでAは涙を流していたし、その声を聞くなかまの目からも涙が溢れました。いつも積極的に話し合いに加わろうとはしなかったAでしたが、ここがAの大切な居場所だったのです。その後、Aを入れて「なかがまって何なのか」「なぜこの学習会に参加しているのか」…、みんなで涙を流しながらその日は時間を忘れて互いの「思い」を語り合いました。その日の学習会が終わったのは夜の12時をとうに過ぎていました。

Bは、最後の学習会(いい日旅立ちの会)が終わわり、私が車で送っていく途中、「先生、おれ部落に生まれて良かったでえ」と、ゆつくりと噛みしめるように話しました。「えっ、どうして?」と聞く私に、「もしこの学習会に参加していなかったら、おれは絶対に他人を平気で差別する人間になっていたと思う。だから、本当にこの学習会に参加できて良かった。」と話してくれました。そんな学習会の意味もあるんだなあと、私はBから教えられました。差別がいつ自分を襲ってくるかもしれないという不安な思いを地区の子どもたちは持っています。しかし、だからと言って皆自分の出身をマイナスにはかり捉えているわけではありません。逆に「こん

な大切なことを知らなかったらと考えたらぞつとする」と子どもたちは言います。そこには反差別の生き方をしようとしている家族や自分に誇りを持っている姿があります。それは差別落書きを目の前にして「なぜ…」と悔し涙を流した後で、「もしこれを書いた人がわかったら私の親を紹介したい、私の親の生き様を見てほしい」と語った子どもの姿と重なります。

「先生、みんなが遊んでいるときに僕たちはなんでここ(学習会)で勉強をせんといいんのか教えてくれ。差別があるからというんじや僕は納得せんて。勉強をせんといいんのは差別する人たちがやろ。」と言った小学生に、私たちは何と答えられるでしょう。「僕は、いつか差別されるかもしれないことが怖いから学習会に来ているんじゃない、悔しいから来てるんだ」「私は差別をなくすために学びたい」「みんなから祝福されて結婚したい」…と言う子どもたちの声や、自分の立場を明かしてでも前向きに生きようとしている子どもたち、また現実にある差別にどう立ち向かっていけばいいのか分からず立ち止まっている子どもたちの姿、そして多くのなかまの反差別の「思い」が私の原点です。自分はどう生きようとしているのか、楽なところに立とうとしていないか、自分の「立っている位置」を自身に問いながら、「子どものために」ではなく「子どもとともに」、そして県人教に集う多くのなかまとともに、私は歩を進めていきたいと思っています。

これが私の「ねがい」です。